

神戸女大瀬戸短大 ○十一玲子 妹尾清子 中野典子  
江口 保 西村綾子

目的 現在市販されている浴衣地の縫い糸の種類は多いが、一般に浴衣地にふさわしい縫い糸の強度についてその報告は見あたらない。そこで前報に続き、並み縫い用の糸の強度および流れ目の程度が縫い目の品質に与える影響を検討し、浴衣地にふさわしい強度の縫い糸を選定することを目的とする。

方法 試料布は綿100%の浴衣地、手縫い糸は綿100%の糸5種、ポリエステル100%の糸2種の計7種とし、縫い針はガス針10号を使用した。縫い目の長さの条件は前報の結果から表目4mm(よこ糸10本)に対して、裏目はよこ糸2本(0.8mm)から7本(2.8mm)までの各本数ごとに試料布を作成した。引っ張り試験はグラフ法に基づいて行い、その模様をビデオプリンターにより観察し判定した。

結果 1. 縫い糸の強度(強度比)が増すと臨界点(破断線と破壊線の交差する点)は次第に上昇する傾向にある。ある一定の縫い糸の強度のところで臨界点は飽和値に達する。2. 縫い糸の強度比は、実験結果の考察により3.62から5.95の範囲が適当であると言える。このことは臨界点の $n$ (裏目の縫い糸本数)が2から4の間に相当する。この範囲により縫い糸の強度が小さい時は、安全領域は広がるが極めて小さい荷重で縫い糸が切れる。また強度が大きい時は、傾斜角が90度よりわずかに少なくなっても浴衣地のよこ糸が破断し、破断孔が生じ危険領域が広がる。したがって、強度比が適当な範囲(3.62~5.95)よりはずれるいづれの場合も縫い糸として不適当である。3. 以上のことから浴衣地を縫製する場合は、手縫い糸綿100%28番2子糸が最も適しており、次いで手縫い糸綿100%30番3子糸がふさわしいことがこの実験結果から判明した。